

# One Thousand Years of Jingdezhen



袖下紅梅文罽擲(部分)  
1975年 個人

## 景德鎮

皇帝の器から毛沢東の食器まで

## 千年展

2007年4月14日[土] - 6月17日[日]

休館日/月曜日

4月28日(土)から5月6日(日)の大型連休中は休館日なし

開館時間/9:00~17:00(入館は16:30まで)

観覧料/一般1,000(800)円、学生800(600)円

※( )内は20名以上の団体料金です。なお70歳以上と18歳以下の方、および高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在学する生徒は無料です。

※前売り券販売・ローンチケット/県内主要プレイガイド

主催/山口県立萩美術館・浦上記念館、朝日新聞社、yab山口朝日放送

後援/萩市

特別協力/MEKホールディング

協賛/エルクホームズ

協力/全日本空輸、エフエム山口

企画協力/東京国立博物館

コーディネイト/S2



五彩龍鳳文蒜頭壺  
明 萬曆窯 鴻福美術館

山口県立萩美術館・浦上記念館  
HAGI URAGAMI MUSEUM

〒758-0074 山口県萩市平安古566-1 TEL0838-24-2400 FAX0838-24-2401  
URL <http://www.hum.pref.yamaguchi.lg.jp/>

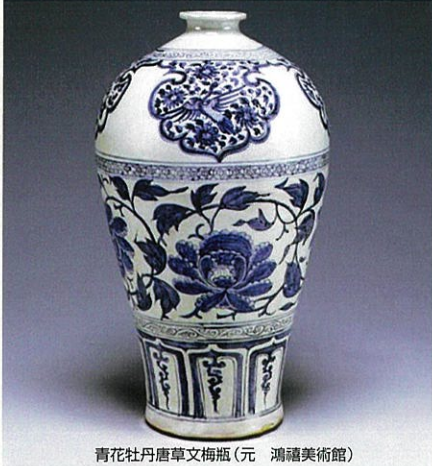


# 景徳鎮 千年展

皇帝の器から毛沢東の食器まで



青白磁獅子鈕水注・承盤(北宋 鴻禧美術館)



青花牡丹唐草文梅瓶(元 鴻禧美術館)



黄地紅彩雲龍文壺(明 嘉靖窯 鴻禧美術館)



釉裏紅花卉文大盤(明 洪武窯 南京博物院)

中国江西省東北部にある景徳鎮は、世界的な磁器の生産地として知られています。五代(10世紀)には越窯の青磁や華北邢窯の白磁を始めた生産が始まり、北宋時代には青白磁を完成させ、中国を代表する窯業地としての地位を確立しました。この青白磁が宮廷で好まれたことから、北宋時代の景德元年(1004)には年号を冠した景德鎮の名がこの地に与えられました。元代後期には白磁にコバルトで絵付けをした青花磁器の技術を完成させ、その地位を不動のものとしします。また、明・清時代には、宮廷で使用する陶磁器を焼造する官窯が置かれ、その華麗をきわめた五彩や豆彩、素三彩、粉彩などの官窯磁器は今日まで最高の評価を受け続けています。

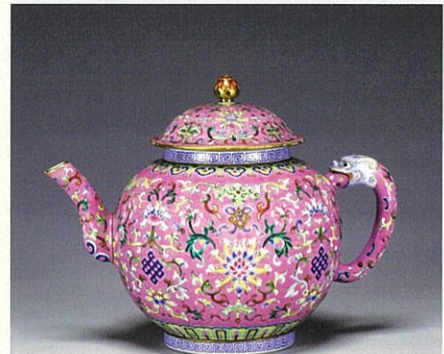
そして、文化大革命末期の1975年、中国革命の最高指導者、毛沢東の日常使いの器が景徳鎮で焼かれました。中央政府より最高水準の器を至急作るよう指示を受けて、景徳鎮の選りすぐりの職人たちと最良の材料が集められ、「玉のように白く、鏡のように明るく、音は磬(せう)のように」を目標に研究が重ねられました。「7501工程」と呼ばれたこの計画は、ついに1400度の高温焼成による美しい磁器を完成させました。完成品のうち、約一千点が北京に送られ、残りはすべて破棄するよう指示がありました。しかし、制作にかかわった人々は、もし、再注文が来ても、同じ水準のものは二度と作れないと考えて密かに保管しました。そして、毛沢東の没後、関係者に記念として配られました。それらの作品は近年、「最後の官窯」「現代の官窯」と人々に評され、中国国内でも注目されつつあります。

本展では、景徳鎮磁器の変遷を、宋時代の青白磁や元青花、明・清時代の歴代官窯製品、そして日本で初公開となる「7501工程」の食器や文房具など、合計約130点でたどり、およそ千年にわたり窯の火を絶やすことなく活動し続ける、景徳鎮の姿を紹介しします。

\*磬…中国古代の石製打楽器で、澄んだ音色がする



粉彩唐子文双耳壺(清 乾隆窯 鴻禧美術館)



粉彩唐花文水注(清 嘉慶窯 鴻禧美術館)



釉下紅梅文食器(1975年 個人)



釉下紅梅文茶器(1975年 個人)

## 同時開催の展覧会

### ●浮世絵展示

「歌麿とその時代」4月14日(土)~5月13日(日)  
「江戸の娯楽」5月15日(火)~6月17日(日)

### ●東洋陶磁展示

「古染付と天啓赤絵—もう一つの景徳鎮—」  
4月14日(土)~6月17日(日)

## 美術館周辺のイベントガイド

萩焼まつり 5月1日(火)~5日(祝)予定 萩市民体育館  
萩・大茶会 5月3日(祝)~4日(休)予定 萩城跡指月公園  
浜崎伝建おたから博物館 5月下旬予定 浜崎地区  
おしくらこう 6月3日(日)予定 浜崎地区

## 会期中におこなう行事のご案内

### ●記念講演会

演題:「景徳鎮千年の歴史」

講師:今井 敦

(東京国立博物館 事業部事業企画課特別展室長)

日時:平成19年4月14日(土)

13:30~15:00

※定員80名受付順 聴講無料

### ●ギャラリーツアー

(学芸員による展示解説・要観覧券)

毎週日曜日11:00~12:00



## [交通のご案内]

JR東萩駅からタクシー7分/まはるバス20分/徒歩30分  
JR新山口駅から防長交通「特急はぎ号」70分・中国JRバス「特急はぎ号(山口・湯田温泉経由)」90分(萩バスセンター下車、徒歩15分)  
萩・石見空港(島根県益田市)から直行バス75分(萩バスセンター下車、徒歩15分)  
山口宇部空港から萩近鉄タクシー「乗合タクシー」75分(ただし利用前日までに要予約、電話 0938-22-0924)  
中国自動車道小郡1.C.美術1.C.から50分